

# やまがた農の匠

～令和4年度グッドハーベストコンクール県知事賞のトップ技術～

大豆の部（個人）

鶴岡市 今野 次雄 氏



今野 次雄 氏

品種 「リュウホウ」

収量 258kg/10a

経営面積 4.7ha、うち大豆 1.8ha

## Point

基本技術の励行、気象予報に基づく計画的な作業

### 高収量技術の肝

- ・ 田畑輪作（大豆1年－水稲2年）により、地力の消耗を防止、マメシンクイガや畑雑草の増殖を抑制している。
- ・ JAの指導資料に従い、基本技術を励行している。
- ・ 水田隣接圃場で明渠、全圃場で弾丸暗渠を施工し、排水対策を徹底している。
- ・ 気象予報に基づき作業計画を立て、適期に播種や中耕培土作業を実施している。
- ・ 除草剤は、効果の高いものを選定し、雑草の発生状況を見て適期に散布している。また、残草は手取りで除去している。



株式会社萩原農園  
のみなさん



生育がみごとに  
揃った大豆畑

品種 「すずかおり」

収量 315.5kg/10a

経営面積 25.0ha、うち大豆 12.0ha

### Point

実需のニーズに合った安定多収&

高品質大豆生産の実現！

#### 高収量技術の肝

- 大豆栽培に最適な条件づくりに向けて、①石灰資材投入による酸度矯正、②プラソイラ耕による透水性向上、③丁寧なロータリー耕による土壌表層の碎土率向上、④播種同時で側条施肥、⑤丁寧な中耕除草等に重点的に取り組み、初期生育確保を図っている。
- ドローンによる病虫害防除を導入し、省力化を図るとともに、ドローンに積載したカメラでダイズシストセンチュウ等、病害発生圃場の観察にも活用している。
- 「すずかおり」「秘伝」を納豆用として、その他品種についても契約栽培を主とした経営を行っている。実需へのヒヤリングを基に、ニーズ（品種、品質、量）に合った大豆生産を行い、業者からの信頼を得ている。また、自家加工品として、ワイン、コーヒーなど様々な飲み合わせた大豆菓子の加工・販売を行い、好評を得ている。

## そばの部（個人）

## 大蔵村 柿崎 正敏 氏



柿崎 正敏 氏



大蔵村の山そば

品種 「最上早生」

収量 71.2kg/10a

経営面積 45.3ha、うちそば 45.3ha

### Point ▶ 畑地を主体とした「そば」の大規模経営

#### 高収量技術の肝

- ・ 遊休牧草地を活用した大区画の畑地で排水性を確保。
- ・ 秋耕により、茎葉の腐熟を促進。
- ・ 夏場のロータリー耕で雑草対策を徹底。
- ・ 土づくりと施肥を兼ねて、化成肥料は使わず鶏ふんのみを施用。
- ・ ドリルシーダーで条播栽培を行い、生育と登熟を揃えて充実したそばを収穫。
- ・ そば単作のため、作業競合がなく全量適期刈取りを実践。



代表  
矢作 武夫 氏



品種 夏そば「キタワセソバ」  
秋そば「最上早生・でわかおり」

収量 夏そば 93kg/10a  
秋そば 112kg/10a

経営面積 9.8ha、うちそば5.2ha

### Point そばの二期作栽培による経営の安定化

#### 高収量技術の肝

- ・バックホーでは場に額縁明渠を設置し、地表排水の徹底を図っている。
- ・耕深を深くして根域を確保することで、生育量確保と子実の充実を図っている。
- ・グランドソーを利用した条播栽培を導入し、ほ場全体の出芽の安定化と茎質の向上に努めている。
- ・夏そばでは春播に適した「キタワセソバ」を導入し、安定した生育量の確保と高温による結実不良の発生抑制に努めている。
- ・播種後 75 日より早く収穫することで、脱粒による減収を防ぐとともに緑色が濃く香りが強い高品質で良食味なそばの生産に努めている。
- ・肥料は全量牛糞完熟推肥を施用し、地力の維持と土壌の物理性の改善に努めている。

 佐藤 隆男 氏	品種 「ふくひびき」
	収量 836.7kg/10a
 圃場	経営面積 8.2ha, うち飼料用米 1.0ha

**Point**

牛糞推肥とケイ酸主体の継続した土づくりで

安定多収を実現！

## 高収量技術の肝

- ・ 自家産の牛糞堆肥とケイカルを主体とした土づくりを継続実施。
- ・ 一発肥料の側条施肥で初期生育を確保。
- ・ 窒素単肥の穂孕期追肥で登熟を向上。
- ・ 高密度播種苗の露地プール無加温育苗で省力、低コスト育苗を実現。